

2 協働事例

団体名	飯南合併協議会・赤とんぼ塾
-----	---------------

協働の事例

協働の形	計画の策定・提案	事業の受委託	役割分担
事業名または事業概要	本音のまちづくりプロジェクト		
協働のパートナー	飯南合併協議会（旧頓原町，旧赤来町），赤とんぼ塾		
具体的な内容	<p>合併にあたり重点施策の検討を進める</p> <p>飯南町（旧頓原町・旧赤来町）の合併にあたり，前年の2004年に両町の職員が重点施策について検討した。ケーブルテレビを活用した地域情報化，自治振興組織や自治区との連携を密接にとりつつ進める住民自治，里山に所在する特性を活かした地域医療，の3つを重点項目とし，それぞれの分野で専門家の指摘を交えながら報告書をまとめ，合併協議会へ提出した。</p>		
効果・特記事項	<p>協働のいきさつ</p> <p>合併協議会は，新町の重点施策を打ち出すための検討に着手した。その際に，これからの行政を担う若手職員の意見を取り入れること，住民の視点を盛り込むことを意識した。そこで，所属部署も様々な20～30歳代の若手職員を起用し，個々の業務にこだわらず，幅広く斬新な発想を出すことに着目した。また，プロジェクトの進行をまちづくりグループ赤とんぼ塾に委託し，住民としての視点をあわせ持ちながら提言をまとめることとした。</p> <p>2004年7～12月の間に，月に1～2回程度の検討会，課題ごとに専門者との意見交換会を行った。その経過を報告書にまとめ，合併協議会へ提出した。</p> <p>協働の効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 枠にこだわらないアイデアを出すことができた <p>参画した若手職員が自由に発言できるよう，組織内の上下関係を排除することを意識した。さらに，他の分野に関する意見も積極的に述べることを促した。その結果，職員個々の業務分野を越え，柔軟なアイデアを出すことができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ まちづくりグループへの委託によって独創的な計画を策定 <p>プロジェクトの進行や報告書のとりまとめは，業者（コンサルタント）ではなくまちづくりグループへ委託した。そのため，地域実態に沿った課題や施策を提言することができた。例えば，情報化については，町内ケーブルテレビの統合を見越しながらどのように生かすかについての検討ができた。住民自治については，各地区の実情と旧頓原町・旧赤来町の差異を明確にしなが，無理のない方向性を導き出すことができた。地域医療については，里山エリアである特徴を生かし，施設重視型ではなく，「施設は田畑」，「最期の日まで長靴を履いていたい」という「終の棲家」構想につながる健康増進の方策を出すことができた。</p> <p>今後の課題・・・合併後の施策展開</p> <p>2005年1月1日に合併し，飯南町が誕生した。合併当初の混乱もあり，町施策が具体的に動き出すことは難しい状況にある。早期に組織的・施策的な安定化を図り，積極的な取り組みを展開していくことが期待される。</p> <p>本音のまちづくりプロジェクトでとりまとめた提言は，新町の主要施策と連動していくべきものである。町全体の総合振興計画や，各課の業務へどれだけ反映されていくのかについて意識されなければならない。このような意識の部分は，町行政あるいは各担当者の力量によるところが大きい。</p>		

団体の概要

代 表 者	熊谷 兼樹 (赤とんぼ塾)			
所 在 地	島根県飯石郡飯南町			
電話・FAX	090-7594-8599・0854-76-2697			
ホームページ	http://bio-region.com/akatonbo/			
主たる活動	飯南町におけるまちづくりの展開。			
団体の目的	飯南町の住民の主体的かつ建設的な意見を集約し,新たな活動を生みだし,合併新町の取り組みに資する。			
活動分野	健康福祉 科学技術 人権平和 まちづくり 職業雇用	学術スポーツ 消費者 子ども 災 害	地域安全 社会教育 経済活性 国際協力	男女共同 環 境 援 助 情 報
主な活動内容	住民相互の意見交換の場の設定,各種プロジェクトの展開(子どもの居場所づくり,上下流連携,歴史発掘・活用,U I ターン者支援など),機関誌の発行。			

団体名	島根県出雲市佐田支所（旧佐田町）
-----	------------------

協働の事例

協働の形	計画の策定・提案	事業の受委託	役割分担
事業名または事業概要	コミュニティ・ブロック		
協働のパートナー	町内 13 ブロックの組織・住民，出雲市佐田町		
具体的な内容	<p>コミュニティ・ブロックによる地域振興</p> <p>町内を13の地区に分け，コミュニティ・ブロックによる地域振興を1997年より実施している。住民自らが地域を見つめ，話し合いを行い，自発的な活動を行うことを基本とした。</p> <p>コミュニティ・ブロックは従来の自治会の上位機関ではなく，別途に地域活動の単位をつくることとした。地区の中にこれまで存在したサークルやクラブを取り込みつつ，文化，体育環境美化部，健康福祉，産業などの部会を編成しつつ，無理のない活動実施に心がけているところもある。</p>		
効果・特記事項	<p>協働のいきさつ</p> <p>過疎・高齢化が進む中，地域の自治機能の低下，農村文化の喪失，地域の共同意識の希薄化などが懸念されていた。一方，自治会をはじめとする旧来の地域運営には農村独特の慣習・風習が残っており，若者や女性など全ての人の意見が反映されたものにはなっていないという課題もあった。</p> <p>このような諸問題を解決するため，町は総合振興計画で「農村コミュニティの再構築」を基本理念に掲げ，それを具現化する施策としてコミュニティ・ブロック整備事業を開始した。この事業では，住民自らが地域課題の発見と将来へ向けた議論を行い，地区の事情に合った地域づくりを展開していくこととしている。町自身も，「受身ではなく，地域として自らできることと行政の責任としてやるべきことをそれぞれが自覚し，住民と行政が役割分担しながら成熟した積極的な地域を創っていく環境を整えることこそ，今の行政に課せられた最大の責務である」（佐田町コミュニティ活性化計画より）という自覚のもと，協働の基礎をつくろうとした。</p> <p>地区内での話がまとまったところから組織化へ以降しているため，組織設立の時期にも差が出ており，1997年度に4つ，1998年度に4つ，1999年度に1つ，2000年度に1つ，2001年度に2つ，2002年度に1つの組織が立ち上がっている。</p> <p>協働の効果</p> <ul style="list-style-type: none"> 適切な行政支援と役割分担 <p>事業実施の初期段階，町は住民の自主性・自立性を支援するため，リーダー研修に力を入れた。また，地区と町とのつなぎ役として，各地区に担当制で職員を割り当てた。町は，住民と行政の役割分担を重視し，事務処理などの下請け仕事を担当職員にさせないよう地区に呼びかけた。また，設立準備段階には，話し合い経費として各地区に10万円，組織設立後は年間50万円の助成を行っていた。</p> 自主・自立に対する自覚の芽生え <p>住民同士の議論を経て，自分達の生活は自分達で組み立てるという機運が盛り上がった地区もある。例えば，自治会単位で生活機能の維持が難しくなったところでは，ミニディサービスの実施，葬式ボランティアの設立など，コミュニティ・ブロックが生活課題の解決に乗り出しているところもある。中には，自治会（班）の機能が衰退しても，コミュニティ・ブロックがその役目を引き継ぎ，知恵を絞り，汗をかくことによって何ら生活には困らないという住民も生まれつつある。地域の良さを子や孫に残していくという使命を持ち，精力的な活動を進めている住民もいる。</p> 		

	<p>今後の課題・・・合併による施策転換 市町村合併により，職員担当制と各地区に対する助成が廃止された。まちづくり支援は，合併によって大きく変化することとなり，これまで機運が盛り上がってきた住民に影響を与えている。</p>
--	--

団体の概要

代 表 者	-																				
所 在 地	島根県出雲市佐田町反辺 1747 - 6																				
電話・FAX	0853-84-0111・0853-84-0579																				
ホームページ	http://www.city.izumo.shimane.jp/																				
主たる活動	コミュニティ・ブロックによる地域振興。																				
団体の目的	住民と行政がパートナーとして地域づくりを展開することのできる新たな住民自治組織をつくる。																				
活動分野	<table border="0"> <tr> <td>健康福祉</td> <td>学術スポーツ</td> <td>地域安全</td> <td>男女共同</td> </tr> <tr> <td>科学技術</td> <td>消費者</td> <td>社会教育</td> <td>環 境</td> </tr> <tr> <td>人権平和</td> <td>子ども</td> <td>経済活性</td> <td>援 助</td> </tr> <tr> <td>まちづくり</td> <td>災 害</td> <td>国際協力</td> <td>情 報</td> </tr> <tr> <td>職業雇用</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	健康福祉	学術スポーツ	地域安全	男女共同	科学技術	消費者	社会教育	環 境	人権平和	子ども	経済活性	援 助	まちづくり	災 害	国際協力	情 報	職業雇用			
健康福祉	学術スポーツ	地域安全	男女共同																		
科学技術	消費者	社会教育	環 境																		
人権平和	子ども	経済活性	援 助																		
まちづくり	災 害	国際協力	情 報																		
職業雇用																					
主な活動内容	コミュニティ・ブロックの設置・運営。及びそのための話し合い助成（10万円/年・地区），職員担当制，リーダー研修会，活動助成（50万円/年・地区）の実施。																				

団 体 名	川根振興協議会
-------	---------

協働の事例

協働の形	計画の策定・提案	事業の受委託	役割分担
事業名または事業概要	行政事業の「前さばき」を地区の組織が実施 （「おこのみ住宅」建設，道路改修にあたって）		
協働のパートナー	高宮町（現：安芸高田市）		
具体的な内容	<p>「おこのみ住宅」</p> <p>高宮町営の「おこのみ住宅」は，入居者が自分で設計でき，月3万円の家賃を支払い20年間住めば200万円で払い下げをするシステム。宅地は川根振興協議会が用地交渉をして確保した。川根振興協議会は，入居者の面接も行う。採用にあたり，小学生がいること，地域活動に積極的に参加すること，20年間住むことを要件とした。1999年より入居開始。</p> <p>道路改修</p> <p>「ほたるまつり」に来てくれる人の往来が不便だったため，住民の中から道を直そうという意見が出た。国土交通省が設計した道路を「道路じゃない」と言い，カラー舗装にするなど地元で計画をつくった。道路をつける際，交渉がうまくいかないなどの問題が地域の中起こっていた。そのうち，用地交渉も自分たちでしようということになった。交渉にあたり，土地はみんなの共有財産だと言うと，最初は「何てことを言うのか」と言われた。また，都会に出ている人に用地交渉をした時，田舎と都会の土地の単価が違うことが問題になったこともある。</p>		
効果・特記事項	<p>協働のいきさつ</p> <p>1972年に江の川が氾濫し，1本しかなかった地区へ続く道が寸断される。自分達の地域は自分達で守らなければならないという住民の危機感のもと，川根振興協議会を設立。設立当時は行政の支援もなく，有志6名が地域をかけずり回って理解を求めたが，住民の関心は薄かった。全戸加入を呼びかけ，1戸あたり500円の会費でスタート。</p> <p>その後，「振興会」による地域経営は高宮町の施策となった。さらに，合併後の安芸高田市にも引き継がれた。</p> <p>協働の効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「おこのみ住宅」によって子どもが増えた！ <p>従前の住宅建設に留まらず，川根振興協議会が入居者を吟味したことにより，定住人口の増加に大きな効果があった。現在，川根小学校約30名の生徒の3分の2は，住宅に入ってきた家の子ども。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道が広がって心が開かれた！ <p>「ほたるまつり」の実施から道路改修を経て，「道路が広がって心の窓が開かれた」，「土地も使いようによって人の心がここまで開くのか」という声があがった。これによって「1地域1家族」という感覚が生まれた。</p> <p>今後の課題・・・次世代の参画</p> <p>地区には20歳代がいない。活動は主に中高年層が担っている。川根振興協議会を始める時に声がかからなかったこともあり，若者の関心は薄かった。今ではみんなでやろうという機運になっている。</p> <p>学校が5日制になったことに伴って昔の寺子屋を復活したが，参加者が少ない。まず親が参加しない。年齢の高い人からは「何で親が本気にならないか」と言われる。</p> <p>特定の者が長い間リーダーを担っていてはいけない。若い世代にバトンタッチしていくことが重要。ただし，バトンタッチして引退するのではなく，現役同様に支えていく必要を感じている。</p>		

団体の概要

代 表 者	辻 駒 健 二			
所 在 地	広島県安芸高田市高宮町川根			
電話・FAX	-			
ホームページ	-			
主たる活動	地域振興			
団体の目的	住民自らの事業提案と活動展開により、川根地区の維持・活性化を図る。			
活動分野	健康福祉 科学技術 人権平和 まちづくり 職業雇用	学術スポーツ 消費者 子ども 災 害	地域安全 社会教育 経済活性 国際協力	男女共同 環 境 援 助 情 報
主な活動内容	<p>環境学習の拠点施設「エコミュージアム川根」の運営 子どものための週末活動「大地の学校 川根もやい塾」の実施 住民による田園環境学習「かわね あぜ道隊」の実施 「川根地域づくり大学（地域づくり研修会）」の実施 「1日1円福祉募金」の実施 その他、川根振興協議会の部会単位による活動多数。</p>			

団体名	ザ・KOMINKAN発起人会
-----	----------------

協働の事例

協働の形	計画の策定・提案	事業の受委託	役割分担
事業名または事業概要	祇園西公民館ワークショップ(全4回) 「みんなで創ろう!わたしたちの公民館」		
協働のパートナー	祇園西公民館, まちづくり学校「雑学の会」		
具体的な内容	<p>ワークショップを4回実施し, その中で, 地域に暮らす人たちが地域の大切な拠点としての公民館について共に考え, 魅力ある祇園西公民館の姿, 将来像を描き, そのために今自分たちができることを具体的な企画にした。作成した企画案の一部でも実現しようと, ワークショップ参加者から希望者を募り, 地域づくり並びに魅力ある公民館づくりのためのボランティアグループを立ち上げた。</p>		
効果・特記事項	<p>協働のいきさつ</p> <p>ザ・KOMINKAN発起人会のメンバーの一人が, 祇園西公民館地域の住民であり, 自分が住む地域の公民館について地域に暮らす人たちと一緒に考えるワークショップを開催したいという提案を祇園西公民館に持ちかけた。祇園西公民館側も, 地域住民の求める公民館像を把握し, さらに一層まちの拠点としての機能を果たしていきたいという思いがあったため, 上記提案を受け入れた。そして, 実際にワークショップ(全4回)を企画・運営するにあたっては, ワークショップの企画・運営技術を持つまちづくり学校「雑学の会」のメンバーに声をかけ, ファシリテーターとして参加してもらった。</p> <p>協働の形態(役割分担)</p> <ul style="list-style-type: none"> ザ・KOMINKAN発起人会 事業の提案, 情報提供, 広報(地域住民への案内) 祇園西公民館 事業費(講師謝金等), 会場・備品等ハード面の支援, 広報, 事務局機能 まちづくり学校「雑学の会」 ワークショップの企画・運営技術の提供 <p>協働の効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ザ・KOMINKAN発起人会にとっての効果 <p>公民館は地域地域によって事情が異なるため, できるだけ多くの地域で, そこに暮らす人たちが「私たちの夢の公民館づくり」を考える場となるようなワークショップを展開したいと計画した。しかし, そのようなワークショップの実施は, 公民館との協働なくしてはありえない。ザ・KOMINKANの事業提案に理解を示した祇園西公民館が, 「夢の公民館づくり」ワークショップの地域展開の第1号となった。</p> 祇園西公民館にとっての効果 <p>非利用者も含め, 地域に暮らす様々な人たちの公民館に対する考えや思い, 魅力的な公民館像を聴くことができた。また, 継続的に地域づくり・魅力ある公民館づくりについて考え, 行動するボランティアグループが立ち上がった。</p> まちづくり学校「雑学の会」にとっての効果 		

	<p>ファシリテーターとして熟練するための実践の場を探していたが、全4回のワークショップを企画・運営することで技能を磨くことができた。</p> <p>・協働の効果</p> <p>3者のどこか1つでも欠けていたら、事業自体が成立しえなかった。地域住民と公民館が互いに協働していける、新たな関係づくりのためのきっかけの場を提供できた。</p> <p>今後の課題</p> <p>公民館について主体的に考え、行動するグループが結成されたが、そのグループが継続的に活動していくためには、情報提供、場の提供、ファシリテーター機能の提供等の支援が未だ必要とされる。ワークショップの終了によって協働関係も終了したのではなく、今後は立ち上がったグループを支援するために、3者がそれぞれの特性を活かした支援を提供していく必要がある。</p>
--	--

団体の概要

代表者	渡部 朋子			
所在地	広島県広島市			
電話・FAX	-			
ホームページ	-			
主たる活動	生涯学習・社会教育			
団体の目的	地域における「ひとづくり，まちづくり」のための大切な拠点である公民館を守り，育む事業を実施する。			
活動分野	健康福祉 科学技術 人権平和 まちづくり 職業雇用	学術スポーツ 消費者 子ども 災害	地域安全 社会教育 経済活性 国際協力	男女共同 環境 援助 情報
主な活動内容	公民館を活用した事業の提案及び実施			

団 体 名	特定非営利活動法人(NPO 法人) 佐東地区まちづくり協議会
-------	--------------------------------

協働の事例（当てはまるものは にしてください）

協働の形	計画の策定・提案	事業の受委託	役割分担
事業名または事業概要	人にやさしいまちづくり拠点「緑井駅前サロン」		
協働のパートナー	<p>土地所有者：再開発事業で生まれた土地所有者の「広島市」</p> <p>施設の建設：再開発法人である第三セクターの「緑井まちづくり株式会社」</p> <p>スタッフ：社会福祉協議会や町内会の呼びかけなどにより集まった「住民」</p> <p>情報、協力：「社会福祉協議会」、「町内会」、「タウンモビリティ楽会」等</p>		
具体的な内容	<p>緑井駅周辺地区市街地再開発区域内に、電動スクーターを無料で貸し出すタウンモビリティを柱とした地域住民が気軽に立ち寄れる「緑井駅前サロン」を設け、地域における「人にやさしいまちづくりの拠点」を目指す。</p>		
効果・特記事項	<p>協働のいきさつ</p> <p>佐東地区は、古川の整備や駅前の再開発など街並みが大きく変わりつつあること、また、背後には高齢化した大規模団地もあることから、高齢者等が電動スクーターを利用して、買物や散歩、人と交流するなど気楽に社会参加することにより、生き生きと暮らしやすい街にしたいとの思いから、再開発事業を契機に実施することとした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ H12,13 年は人にやさしいまちづくりの講演会を開催 ・ H13 は住民アンケートを行い、タウンモビリティの必要性を確認 ・ H16,17 は 50 人の地域住民と施設規模や運営について 22 回のワークショップ開催 ・ H17 の 11 月、「緑井駅前サロン」オープン <p>協働の形態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 広島市は、建設用地として再開発事業で生まれた土地を無償で貸し出す。また、高齢者が街に出やすくするため歩道の整備等、バリアフリーのまちを整備する。 ・ 再開発法人である第三セクターの緑井まちづくり株式会社は、緑井駅前サロンを建設し、佐東地区まちづくり協議会（以下「協議会」という）に寄付をする。 ・ 協議会は、企業、町内会、社会福祉協議会の協力（お金や車いすの寄付等）を得ながら地域住民と一緒にサロンを運営するとともに、サロンの維持・管理を行う。 		

	<p>協働の効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ サロンの建設に向け，みんなが力を合わせるにより連帯感が生まれた。 ・ サロン建設にあたって行政等の協力が得られたため，「よしやろう」と住民の力が存分に発揮できた。また，金銭的にも住民の負担が軽減した。 ・ 地域ニーズに対応したよりきめ細かなサービスが行えるようになった。
--	--

団体の概要

代 表 者	海 徳 貢			
所 在 地	広島市安佐南区緑井五丁目 8 - 4 (川手 哲)			
電話・FAX	(0 8 2) 8 7 7 - 1 2 1 0 緑井駅前サロンは (0 8 2) 8 7 6 - 4 3 6 0			
ホームページ				
主たる活動	まちづくりの推進を図る活動 保健，医療又は福祉の増進を図る活動 等			
団体の目的	佐東地区の良好な生活環境の創造による住みよいまちづくりの推進を図る			
活動分野	健康福祉 科学技術 人権平和 まちづくり 職業雇用	学術スポーツ 消費者 子ども 災 害	地域安全 社会教育 経済活性 国際協力	男女共同 環 境 援 助 情 報
主な活動内容	まちづくりに関するイベント事業・講演会開催事業・広報活動事業 タウンモビリティ事業 古川ホテルの里づくり事業 その他，この法人の目的を達成するために必要な事業			

団体名	NPO法人 しまね子どもセンター
-----	------------------

協働の事例

協働の形	計画の策定・提案	事業の受委託	役割分担
事業名または事業概要	子育て環境に関する調査研究事業		
協働のパートナー	島根県中山間地域研究センター		
具体的な内容	<p>官・民の協働による調査事業の実施</p> <p>NPO法人しまね子どもセンター，NPO法人穂なみネット21，島根県中山間地域研究センターが協働し，子育て・子育て環境に関する調査研究事業を実施した。その結果を報告書としてまとめ，県および市町村，公民館，学校等の関連団体に配布した。</p> <p>NPO法人しまね子どもセンターでは，この結果を元に，子どもの居場所「ごった煮スペース」を独自に事業展開した。さらに，県が進める居場所づくり事業の指導・助言も行った。</p>		
効果・特記事項	<p>協働のいきさつ</p> <p>NPO法人しまね子どもセンターでは，子育て・子育て環境に関する課題がまとまった声や世論になっていないことに着目。子育て・子育て環境の実態把握，実態把握から導き出される施策提言を行うための調査を実施しようとした。一方，島根県中山間地域研究センターでは，過疎・高齢化が進む中山間地域の課題の1つとして定住・子育てを位置づけており，少子化への対応を考える研究を行っていた。</p> <p>子育て・子育てに関する課題に重点を置くNPO法人2団体，行政の試験研究機関が一緒になり，2001年度にアンケート調査の実施・分析，ヒアリング調査，施策提案の検討などを行った。その結果を，子育て環境に関する総合調査報告書「1人よりみんなで子育て 地域でつくりたい『ごった煮スペース』」としてまとめた。</p> <p>協働の効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世論になりにくい子育てに関する諸課題を明らかにした <p>子育てに関する諸課題は，子どもの成長とともに次々と変化するために世論になりにくく，よって施策にもつながりにくいという問題があった。このことは，行政と住民の双方が有する技量や専門性のミスマッチに依るところも大きい。</p> <p>今回の共同研究では，住民とのコミュニケーションやネットワークを有するNPO法人と，調査分析を専門的に実施している研究機関が連携することによって，お互いのメリットを出し合い，現場の声に基づく提言を導き出すことができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民間の良さを生かして機敏性・柔軟性のある活動を展開 <p>子育てに関する取り組みは，子どもの成長に合わせて機敏性と柔軟性が求められる。前年度予算組，単年度予算主義，縦割り型で進められる行政施策においては，現場に密着した施策実施は難しい。</p> <p>一方で，住民組織であるNPO法人しまね子どもセンターでは，調査研究の結果に基づいて機敏な動きを取ることができた。様々な世代が集い，誰もが自由に立ち寄ることのできる場所「ごった煮スペース」で子育てを実践するという考え方に基づいて準備・調整を進め，事業化することとなった。</p> <p>今後の課題・・・活動のための事業費と人材の確保</p> <p>「ごった煮スペース」は収益のある事業ではないため，事業費の確保が課題である。また，継続性の面では，それなりの場所や人材（コーディネーター）が必要である。これらを解決し，継続的な居場所づくりを実現する必要がある。</p>		

団体の概要

代 表 者	坂本 和子			
所 在 地	島根県大田市大田町大田八 286			
電話・FAX	0854-82-5111 (兼)			
ホームページ	http://www.iwami.or.jp/kodomo/			
主たる活動	子育て・子育て環境に関する活動の実践・支援。			
団体の目的	子どもの育ちを応援する。島根県の子どもたちがのびやかで豊かな「子ども時代」を過ごすことができる環境づくりを実施。			
活動分野	健康福祉 科学技術 人権平和 まちづくり 職業雇用	学術スポーツ 消費者 子ども 災 害	地域安全 社会教育 経済活性 国際協力	男女共同 環 境 援 助 情 報
主な活動内容	子どもたちがのびやかで豊かな「子ども時代」を過ごすことができる環境づくりを行うため、「現場」、「シンクタンク」、「中間支援」の3つの機能と、「居場所づくり事業」、「アート事業」、「ネットワーク事業」の4つの事業を展開。			

団体名	(社)神石高原町シルバー人材センター
-----	--------------------

協働の事例

協働の形	計画の策定・提案	事業の受委託	役割分担
事業名または事業概要	高齢者活の子育て支援事業(学童保育「やまびこクラブ」) 少子化に対応するとともに、高齢者の培ってきた豊かな知識と経験を次代を担う児童等に伝承し、高齢者の健康・生きがいにつなげるなど、地域社会の福祉の増進に寄与する。		
協働のパートナー	神石高原町福祉保健課		
具体的な内容	生活習慣指導・しつけ・読書・昔の遊び・音楽・工作(藁細工・竹細工)・伝統芸能・ふるさと探訪等。 宿題は必ずやりきらせる。 子どもたちに心の安らぎを提供する。 知識・経験・技術を子どもたちのために活かす。 実施期間 月曜日～金曜日(放課後) 15:00～18:00 土曜日 8:30～18:00 長期休業(春・夏・冬) 8:30～18:00		
効果・特記事項	保護者に感謝され、シルバー会員(指導者)は健康・生きがいを感じている。 広島県教育委員会「食べる!遊ぶ!読む!」キャンペーンのホームページの好事例で紹介されたことで、テレビ・新聞・県広報誌等の報道機関や他市町からの資料請求や見学の申込み・問い合わせがある。 事業運営について研修会での事例発表や講演の依頼がある。		

団体の概要

代表者	理事長 逸見博志			
所在地	神石郡神石高原町油木乙2016-2			
電話・FAX	電話 0847 89 0121 FAX 0847 89 0138			
ホームページ				
主たる活動	高齢者に就業の機会の提供・地域社会づくりに寄与する。			
団体の目的	センターは、定年退職者等の高年齢退職者(以下「高年齢者」という)の希望に応じた就業で、臨時的かつ短期的なもの又はその他の軽易な業務に係る就業の機会を確保し、及びこれらの者に対して組織的に提供すること等により、その就業を援助して、これらの者の生きがいの充実、社会参加の推進を図ることにより、高年齢者の能力を生かした活力ある地域社会づくりに寄与することを目的とする。			
活動分野	健康福祉 科学技術 人権平和 まちづくり 職業雇用	学術スポーツ 消費者 子ども 災害	地域安全 社会教育 経済活性 国際協力	男女共同 環境 援助 情報
主な活動内容	高齢者活の子育て支援事業 学童保育「やまびこクラブ」 高齢者活用生活援助サービス事業 地域高齢者社会参加促進事業			

団 体 名	神石高原町青年会
-------	----------

協働の事例

協働の形	計画の策定・提案	事業の受委託	役割分担
事業名または事業概要	青年会活動を通じた活力ある町づくり・豊かなふるさとづくり 子どもたちの育成のための指導・支援		
協働のパートナー	神石高原町教育委員会 他，地域諸団体・各種実行委員会 等		
具体的な内容	<ul style="list-style-type: none"> ・町内外の人を対象としたイベント事業の実施 (アーティストを招聘したコンサート，喜劇の舞台 等) ・都市部と山間部の青年の交流事業の企画と運営 (未婚の青年男女を対象とした「ナイト・パーティー」等) ・国際交流の場への参加 (中国からの職務研修生との「ながの村」での交流会 等) ・その他，各支部における行事への参加と主催 (「盆祭」「駅伝」「スポーツ交流」「キャンプ」「サンタクロース」等) 		
効果・特記事項	<p>町青年会活動の他，各支部において企画した主催事業の運営と，地域行事への積極的な参加をおこなっている。また，こうした各支部の行事へは他の支部からも青年会として互いに参加し，町内青年の交流の機会としている。</p> <p>その他，学校や地域におけるスポーツの指導等にも携わる中で，地域の活性化やまちづくりに取り組んでいる。</p>		

団体の概要

代 表 者	会長 中 野 達 也			
所 在 地	神石郡神石高原町油木乙 1858			
電話・FAX	0847 82 0211 / fax 0847 82 0406			
ホームページ				
主たる活動	青年及び青年団体の連携と交流・研修・振興			
団体の目的	神石高原町内に居住・勤務する青年相互の連絡・連携を深め，その活動を通じて，地域の発展及び生涯学習に資する。			
活動分野	健康福祉 科学技術 人権平和 まちづくり 職業雇用	学術スポーツ 消費者 子ども 災 害	地域安全 社会教育 経済活性 国際協力	男女共同 環 境 援 助 情 報
主な活動内容	青年交流事業の企画・主催と運営。 地域行事への積極的な参加と協賛。 子どもたちの地域活動の支援・スポーツ指導等。			

団 体 名	N P O 法 人 七 塚 原 自 然 体 験 活 動 研 究 セ ン タ ー
-------	---

協働の事例

協働の形	計画の策定・提案	事業の受委託	役割分担
事業名または事業概要	自然体験教室プログラム		
協働のパートナー	庄原市		
具体的な内容	<p>現施設名；高原の家七塚 体験教室等の企画・運営，施設管理など施設全般の経営を行っている。</p> <p>子どもを中心に，施設近郊の豊かな自然と宿泊可能な施設を活用した体験教室を四季折々実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども遊び教室（1日/回；年5回） ・ 七塚原自然探検隊（1泊2日/回；年4回） ・ 子どもキャンプ教室（4泊5日/回；年1回） ・ 薬草探検隊（1泊2日/回；年2回） ・ 野菜栽培教室（1日/回；年4回） <p>（平成17年度実施事業から抜粋）</p>		
効果・特記事項	<p>庄原市が広島県から移管を受けた「元広島県立七塚原青年の家」の活用方法を検討する中で，施設管理や施設を活用した運営を一体的に行う組織として，地元を中心に「N P O 法人七塚原自然体験活動研究センター」を設立した。</p> <p>庄原市より施設の維持管理について支援を受けている。また，各教室の開催案内を市広報誌に掲載している。</p> <p>施設を活用して行う事業は，同研究センターの設立趣旨のとおり，子どもを主な対象として，周辺の自然を活かした体験活動が中心になっている。</p> <p>さらに，指導者や運営スタッフとして地域の方の協力を得ている。</p>		

団体の概要

代 表 者	徳政 衛			
所 在 地	〒727 - 0023 庄原市七塚町580番地			
電話・FAX	0824 - 75 - 2033			
ホームページ	http://www15.ocn.ne.jp/~nanatuka/index.html			
主たる活動	各種自然体験教室等の自然体験教室			
団体の目的	自然環境を活用した自然体験活動事業を推進し，もって青少年の健全育成及び国民の豊かな余暇生活の構築に寄与することを目的とする。			
活動分野	健康福祉 科学技術 人権平和 まちづくり 職業雇用	学術スポーツ 消費者 子ども 災 害	地域安全 社会教育 経済活性 国際協力	男女共同 環 境 援 助 情 報
主な活動内容	施設近郊の豊かな自然と宿泊可能な施設を活用したさまざまな体験教室を実施している。			

団 体 名	もりメイト倶楽部 Hiroshima
-------	--------------------

協働の事例

協働の形	計画の策定・提案	事業の受委託	役割分担
事業名または事業概要	太田川流域子ども交流事業・太田川流域学校間交流事業		
協働のパートナー	太田川流域振興交流会議（広島市環境局環境保全課）		
具体的な内容	<ul style="list-style-type: none"> ・太田川の清流を生み出す森林について学習。林業体験（間伐）、工作体験を通して、自然環境保全の大切さを学習するとともに、地域の人たちとの交流を図る。 ・太田川流域振興交流会議がいくつかの交流事業を小学校や子ども会等に紹介して参加を呼びかけ。その学習プログラムのひとつとしての「林業体験」学習を、エントリーした学校3校と子ども会2団体に対して実施した。（全5回／17年度 各校・団体毎で40～120名が参加） 		
効果・特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・対象は4年生で、中学年ということで感性が非常に豊か。 ・もりメイト倶楽部としては、環境教育の一環として次世代を担う子どもたちの環境意識を育てるという手応えや成果を感じている。また、プログラムを企画し実施することで、メンバーのスキルアップがはかられ、人材育成ということにもつながり、やりがいがある。 ・学校としては、地域の人々に触れ、自ら製作する工作などを持ち帰ることで、環境意識が深まる効果が大いだと、教師の評価が高い。 ・行政側は、小学校の授業や子ども会活動の中で、自然体験を通して環境保全の大切さを学習する機会を提供している。具体的には、この事業に関わる各ボランティア活動団体と協議を重ねながら、活動が円滑に実施されるように支援し、各団体と学校及び子ども会とをつないで、連携・協働をはかっている。 		

団体の概要

代 表 者	会長 見勢井 誠			
所 在 地	広島市中区白島中町12-4			
電話・FAX	電話：082-221-1080		FAX：082-221-2341	
ホームページ	http://www.morimate-ch.com/			
主たる活動	環境保全			
団体の目的	林業技術の習得と会員相互の親睦を図り、環境保全のための森林づくりの推進を行う。			
活動分野	健康福祉 科学技術 人権平和 まちづくり 職業雇用	学術スポーツ 消費者 子ども 災 害	地域安全 社会教育 経済活性 国際協力	男女共同 環 境 援 助 情 報
主な活動内容	例会・部会で毎週活動。林業施業，子どもの環境教育，地域団体のサポートなど。森・川，都市と地域をつなぐ活動など。			

団 体 名	NPO 法人 コミュニティリーダーひゅーるぼん
-------	-------------------------

協働の事例

協働の形	計画の策定・提案	事業の受委託	役割分担
事業名または事業概要	<p>まち・くらしを豊かにするキーパーソン 「ボランティアコーディネーター養成講座」 さまざまな情報の発信や受け入れ・調整などして、より効果的な活動を図るボランティアコーディネーターの養成。</p>		
協働のパートナー	<p>社会福祉法人広島市社会福祉協議会 (財)広島市ひと・まちネットワークまちづくり市民交流プラザ</p>		
具体的な内容	<p>基礎編：各団体のボランティアコーディネーターや担当者，または，これからコーディネーターの役割を担っていく予定のある人が対象。 「ボランティアって何?」「コーディネーターとは?」など。 応用編：ボランティアコーディネートに3年以上携わっている人が対象。 パネルディスカッション「ボランティア活動のいま」。 共 通：分科会と基調講演 受講費：どちらも 3,500円。</p>		
効果・特記事項	<p>協働のいきさつ これまで社協は「福祉」，プラザは「まちづくり」という視点で事業を展開していくことが多かったが，これらが融合し，人的な交流が図られると，ボランティア・市民活動はより一層，充実し，活性化していくことが考えられる。NPO「ひゅーるぼん」，広島市社会福祉協議会ボランティア情報センター，広島市まちづくり市民交流プラザの3者でこのことについて議論を深め，今回の開催に至った。</p> <p>協働の形態 NPO これまでの草の根のネットワークを活かした企画立案，発表者の依頼 社 協 福祉的視点での講師紹介，運営資金の支援 プラザ まちづくり視点での講師紹介，会場・備品等ハード面の支援，広報</p> <p>といった，それぞれの特徴を活かした運営ができつつある。これからの運営次第では，三者の力を足した以上の効果が期待できるのではないかと。</p> <p>協働の効果 まちづくり活動団体の発表が行われた分科会には，多くの社協職員が参加し，「異なった視点が学習でき，大変参考になった」という感想が多く聞かれた。また，本事業を担当したプラザ職員からも「今回の事業を通じて社協職員と面識ができ，今後の交流のきっかけになった」という感想があった。分野を越えたネットワークが構築できそうである。</p>		

団体の概要

代 表 者	川 口 隆 司			
所 在 地	〒731-0102 広島市安佐南区川内五丁目14-24 2F			
電話・FAX	電話(082)831-6888 FAX(082)831-6889			
ホームページ	http://www.hullpong.jp			
主たる活動	まちづくり			
団体の目的	あたたかなまちづくりをテーマに、地域に対して自発性にもとづいた多様な福祉活動、まちづくり活動を行い、社会全体の利益の増進に寄与することを目的とする。			
活動分野	健康福祉 科学技術 人権平和 まちづくり 職業雇用	学術スポーツ 消費者 子ども 災 害	地域安全 社会教育 経済活性 国際協力	男女共同 環 境 援 助 情 報
主な活動内容	<p>コミュニティスペースプログラム(子どもたちの育ちや障害のある人の社会参加を支援する居場所づくり)...「じゃんけんぽん」「ひまわり」の運営, キャンプなどの季節プログラムの実施。</p> <p>まちづくりフロンティアプログラム(人やまちへの啓発活動)... 障害のある人の芸術作品展「アートルネッサンス」や地域の交流イベント「ほっとストリート」の開催, 広報活動, 講師・委員派遣など。</p> <p>コミュニティボランティア参加育成支援プログラム(あたたかなまちづくりに向けたボランティア育成)... 「ボランティア・NPO相談」など。</p>			

団 体 名	屋根裏の会
-------	-------

協働の事例（当てはまるものは にしてください）

協働の形	計画の策定・提案	事業の受委託	役割分担
事業名または事業概要	楽々園小学校「総合的な学習の時間」 心の中からバリアフリーを見直そう（全5回）		
協働のパートナー	楽々園小学校，広島工業大学の学生		
具体的な内容	<p>小学4年生127名（4クラス）を対象とした「総合的な学習の時間」の企画・運営 テーマ「心の中からバリアフリーを見直そう」 2001年10～11月実施</p> <p>第1回 いろいろな人の立場になって考えようゲーム など 第2回 まち探検作戦会議 など 第3回 まち探検 など 第4回 地図と壁新聞づくり など 第5回 地域の人たちを招いて劇的・発表会 など</p>		
効果・特記事項	<p>協働のいきさつ 2001年6月に，地域団体の代表と学校関係者で構成されている楽々園小学校協力会議が開かれ，その席で総合学習の取り組みについての協力依頼が行われた。屋根裏の会のメンバーの一人が，地域の町内会長として参加しており，「企画段階から一緒に取り組むのであればメンバーに諮ってみる」ということでもちかえた。最初はどれだけの人員を確保できるかが課題となったが，広島工業大学の学生たちが参加してくれることになり，協働が始まった。</p> <p>協働の形態 ・屋根裏の会 学習プログラムの企画及び運営 ・小学校 児童に関する情報提供，会場・備品等の提供，学習プログラムの共同企画と運営 ・広島工業大学の学生 パソコン技術や，パワフルなマンパワーの提供</p> <p>協働の効果 学校側は当初，総合学習としてのカリキュラムを4回で終了する予定であったが，屋根裏の会からの提案で，子どもたちの「まちのバリア探検」の成果を地域の人たちや保護者などを招き発表する事になった。開催日程についても，学校側からは最初，平日の午後が提案されたが，屋根裏の会との意見調整の結果，多くの人たちの参加が望める土曜日の開催となった。日頃学校行事に参加できない父親，地域の住民，商店街の人たち，区役所，福祉関係者にも呼びかけを行い，子どもたちが発見したまちの「お宝くん」や「困ったくん」が発表された。当日参加した区役所の土木課の人から，「困ったくんについては，できるだけ直すようにします」という発言が聞けた。総合学習終了後，ある子どもから，自主的に「グループをつくってまち探検を行った」という報告が担任にあった。子どもたちは総合学習の時間を通じて，自分たちが暮らす地域のこと，そこに暮らす人たちのことを改めて知った。そして，自分たちの意見や提案が，地域のまちづくりにつながっていく喜びも知ることができた。子どもたちが学ぶことで，先生も，地域の人も，役所の人も学ぶという相互学習の場が形成された。</p>		

	<ul style="list-style-type: none"> ・屋根裏の会にとっての効果 未来のまちづくり人である子どもたちや小学校について学ぶ事ができた。 ・小学校にとっての効果 初めてまちづくりに関わる機会となり，その手法（ワークショップ）等を学ぶ事ができた。プログラム終了後，2人の先生が屋根裏の会に加わった。 ・広島工業大学の学生にとっての効果 関わった学生たちは主に建築学を学んでいたが，大学では学べない住環境について，実感を持って考える機会を得た。
--	---

団体の概要

代 表 者	< 連絡先 > 中倉 勇			
所 在 地	広島市佐伯区			
電話・FAX				
ホームページ	http://www1.ocn.ne.jp/~yaneura/			
主たる活動	まちづくり			
団体の目的	佐伯区のまちづくりを考える			
活動分野	健康福祉 科学技術 人権平和 まちづくり 職業雇用	学術スポーツ 消費者 子ども 災 害	地域安全 社会教育 経済活性 国際協力	男女共同 環 境 援 助 情 報
主な活動内容	八幡川100プロジェクト，海老山で遊ぼう会，楽々園タウンモビリティ，公民館の活動支援等			

団体名	「よいとこみつけて健康(まめ)でいーなん！」実行委員会
-----	-----------------------------

協働の事例

協働の形	計画の策定・提案	事業の受委託	役割分担
事業名または事業概要	まちづくりイベント「よいとこみつけて健康(まめ)でいーなん！」の実施		
協働のパートナー	飯南町		
具体的な内容	<p>実行委員会によるまちづくりイベントの企画</p> <p>町総合調整課の主導により、平成17年度に住民活動について調べる「よいとこさがし」を展開、167件の活動事例が集まった。これらの情報を住民と共有し、地域活動を盛り上げていくため、まちづくりイベント「よいとこみつけて健康(まめ)でいーなん！」を実施することになった。町の呼びかけで町内4地区から2名ずつの住民が選ばれ、実行委員会を設置。実行委員会では、イベント内容の企画、各委員の準備から当日に至るまでの役割などを話し合い、平成18年3月5日にイベントを実施した。</p> <p>イベントは、午前～午後にわたる1日がかりのもので、まちづくりと健康づくりの接点を見つけようという目的のものと、下記の内容が行われた。</p> <p>町内5事例による活動報告</p> <p>「生涯現役」に関する講演(東京都立大学星旦二教授)</p> <p>まちづくり・健康づくりに関するディスカッション</p> <p>町内全地区(22地区)の活動展示</p> <p>健康に関する展示(雲南保健所)</p> <p>地産地消の食の試食会&パフォーマンス団体のアトラクション</p>		
効果・特記事項	<p>協働のいきさつ</p> <p>実行委員会の設置は、町がまちづくりを協働によって進めていこうと考えたことに由来する。これまで、イベントは行政主導で実施されていたものが多く、今回も住民と行政の双方が協働という概念や手法を十分に理解できていたわけではない。お互いに手探りで接点を模索することとなった。</p> <p>イベント実施は、町総合調整課が先行して取り組んできた「よいとこさがし」の延長線上にあたる。同じ時期、保健福祉課でも健康づくりに関するイベントを計画していることを知り、実行委員会では住民の混乱を避けるために合同で実施してはどうかという話が出た。これまで町は、担当課の連携によるイベントはほとんど経験がなかったが、分野連携も意識しながら進めていくこととなった。</p> <p>協働の効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民が実現したいこと・期待することを意識するようにした <p>行政の方から協働を意識し始めたが、住民にもその意識が存在していたわけではない。そこで実行委員会では、行政からやらされるという考え方を払拭するため、イベントの企画運営を通して委員自らが発見したいこと・期待することを意識するようにした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分野間連携が進んだ <p>総合調整課(地域振興分野)と保健福祉課の合同によって「よいとこみつけて健康(まめ)でいーなん！」を実施することになったのは、たまたま同じ時期にイベントを予定していたということが実情である。従って、まちづくりと健康づくりの接点が見いだせるのかということに各方面からの疑問や批判が出た。結果的に、生きがいと収入が伴う活動は、最も効果のある健康づくりであるという到達点を導き出すことができ、異分野同士で業務上の理解も進むこととなった。</p>		

	<p>今後の課題・・・第2回以降への継続性</p> <p>「よいとこみつけて健康(まめ)でいーなん！」は、飯南町にとって初の試みということもあり、実行委員会も初回のイベントを企画・運営するためのものとして設置された。そのため、継続的な活動を続けていこうという意味確認はできていない。一方で、初回を終えた後に第2回の開催を期待する声もある。第2回へ向けては、引き続き現在の実行委員会が存続してやっていくのか、今回の経験や成果を第2回以降にどのように生かすのか、協働の本質について深めることができるのか、などが課題となっている。</p> <p>イベントの企画・運営を終えて、住民と行政の双方に協働の意識が完全に芽生えたわけではない。お互いの理解は時間をかけて進める必要があるため、今後の活動を続けながら、数年単位で見えていく必要がある。</p>
--	--

団体の概要

代表者	田部 高久			
所在地	島根県飯石郡飯南町			
電話・FAX	-			
ホームページ	-			
主たる活動	イベント実施のための検討会の開催,事前～当日の準備,当日の運営。			
団体の目的	協働により、まちづくりイベント「よいとこみつけて健康(まめ)でいーなん！」の企画・運営を行う。			
活動分野	健康福祉 科学技術 人権平和 まちづくり 職業雇用	学術スポーツ 消費者 子ども 災 害	地域安全 社会教育 経済活性 国際協力	男女共同 環 境 援 助 情 報
主な活動内容	まちづくりイベント「よいとこみつけて健康(まめ)でいーなん！」の企画,準備・調整,個々のメンバーの役割分担による当日の運営。			

団体名	レトロバス復元の会
-----	-----------

協働の事例（当てはまるものは にしてください）

協働の形	計画の策定・提案	事業の受委託	役割分担
事業名または事業概要	レトロバス復元事業 約100年前に横川 - 可部間を日本で最初に運行した路線バスを原寸大で復元し，同区間を走行させ，地域の活性化，観光資源の開発を図った。また，横川駅前に展示し，まちづくりのシンボルとなるモニュメントとした。		
協働のパートナー	企業（オフィシャルスポンサー：フレスタ，広電，横川商店街），広島市都市整備局・都市計画局，（財）広島市ひとまちネットワーク三篠公民館		
具体的な内容	レトロバスを復元して横川 - 可部間を走行し，横川駅前広場に展示してまちのシンボルとすることが主たる事業内容であったが，その間に，次のような関連イベントを地域活性化，観光振興を目的として行った。 <ul style="list-style-type: none"> ・レトロバス復元前年祭 ・子ども音楽劇レトロバス物語 ・レトロバス復元 - 川辺の大神行 ・グッズ開発（オリジナル商品，テーマソング等） ・お披露目パレード 他 ・レトロバス「解体祭」 ・「ひろしまバスまつり」への参加 ・巷談かよこ物語の披露 		
効果・特記事項	協働のいきさつ 広島市の横川駅前再整備に併せて，横川商店街，おやし活性化委員会が中心となりレトロバス復元の会を設立した。同会には，その他，三篠公民館，三篠学区社会福祉協議会，三篠文化協会，三篠学区子ども会育成会，可部カラスの会，広島余暇プランナー協会，屋根裏の会，広島市立大学芸術学部，広島市の行政職員等が参加した。特に，三篠公民館は，まちづくり支援事業に位置付け，同会の事務局運営を担った。そして，復元の資金を確保するためにオフィシャルスポンサー制度を設け，フレスタ，広電，横川商店街の3社にオフィシャルスポンサー（大口のスポンサー）になってもらった。 協働の形態 ・「レトロバス復元の会」 日本で最初に走った乗合バスの復元 ・広島市 横川駅前広場内に復元されたレトロバスの展示施設を作り，提供 ・企業 復元のための資金提供 ・公民館 市民活動の支援（情報提供，ノウハウの伝授，会場提供） 復元したバスの完成式などは，共催で行った。 行政職員がボランティアとして多数参加した。 協働の効果 企業等をスポンサーとして2,700万円という高額な事業費を独自に集め，レトロバスの復元が行われた。また，マスコミにも注目され，広島市内外で大きな関心を引き起こし，地域の活性化に大きく貢献した。横川商店街等の市民が主体となった事業ではあったが，そこに駅前整備事業を担当する市職員や公民館職員らが一市民として参加し，事業の推進に大きな役割を果たした。また，バス復元にあたっては，市立大学の先生やマツダOBら高い専門性を備えた人々が，車作りに深くかかわったことで，高い品質のレトロバスが復元された。さらに，関連イベントでは，他地域の市民団体も参加し，イベントを一緒になって盛り上げた。 ・市役所にとっての効果		

多くの市職員らが一市民として事業に参加し、市民と役人という関係ではなく、同じ目的を持つ仲間同士という関係性の中で、地域と役所の信頼関係が築かれた。駅前広場整備事業では、通常は道路交通局のみが測量・設計・工事を担当するが、横川の事業では、市長指示もあって基本計画の段階から都市計画局も関わりアイデアやデザインを提供した。横川市民の熱意に触れたことで、市内部でも横断的な執行体制をひくことができた。

・公民館にとっての効果

公民館職員が持つ、イベントノウハウの提供や補助制度などの情報、実行委員会運営のための指導助言、市役所と住民を結ぶパイプ役を果たしたことにより、市民活動における公民館の必要を強くアピールできた。中でも、子ども会や青少協、消防団などの地域団体とレトロバス復元の会を結ぶ役割を果たすことができ、地域活動の要として多くの住民の信頼を得る事ができた。

・企業にとっての効果

オフィシャルスポンサーに対しては、次のような300万円相当の広告枠が提供された；レトロバス復元の会公式記録、チラシ広告、新聞広告、市内各所に配布・掲示するレトロバス復元PRポスターにおいて広告枠の用意、並びにオフィシャルスポンサーの紹介・募金箱での紹介・バナー広告・商標権の使用許可（レトロバス復元の会が所有するロゴ及びデザインの使用許可）・レトロバス復元協力を社のイメージアップ戦略として使用することの許可 など

・レトロバス復元の会にとっての効果

一市民として事業に参加した数多くの市職員や、事務局運営のため、様々な機能を提供した三篠公民館の協力がなければ本事業の成功はなかったと考えられる。公務員が持つ専門知識・技能・情報・人的ネットワークが事業の推進に大きな力となった。公職の人間が一市民として事業に参画し、地元の人達の我が町を愛する心に同化していったことで、地域に根ざした事業が効率良く、効果的に成し遂げられていった。また、地域住民にとっても、市行政や公民館が身近なものとなり、要求する側、要求される側といった関係を超えて良好なパートナーシップが築かれつつある。

なお、レトロバス復元の会は、その目的を果たし、廣島かよこバス活用委員会へと移行した。活用委員会では、駅前広場とレトロバスを活用した地域の賑わいづくりを進めている。

団体の概要

代表者	原田 睦民			
所在地	広島市西区			
電話・FAX				
ホームページ				
主たる活動	レトロバスの復元，走行，まちづくりのシンボル化			
団体の目的	レトロバスの復元による地域活性化及び観光資源の開発			
活動分野	健康福祉 科学技術 人権平和 まちづくり 職業雇用	学術スポーツ 消費者 子ども 災害	地域安全 社会教育 経済活性 国際協力	男女共同 環境 援助 情報
主な活動内容	レトロバスの復元，走行，まちづくりのシンボル化のほか，地域の賑わいづくりや観光振興のためのイベントの開催など。			

